

W26a **VSOP-2 地上 VLBI 総合整備計画 -2012 年度後半打ち上げに向けて-**

萩原喜昭、川口則幸、河野祐介(国立天文台)、VSOP-2 地上観測系総合ワーキンググループ

VSOP-2 の科学観測を効率的に実行してゆくためには、国内外の地上 VLBI 観測局パートナーと協調して、地上 VLBI 局、相関局、そして衛星が一体化した観測システムの国際的な構築が必要になる。VSOP 一号機「はるか」期とは異なり、ここ数年で大幅に充実してきた日本国内および東アジア地域の地上 VLBI ネットワークは、VSOP-2 観測で大きな役割を果たしていくことが期待されている。地上 VLBI 局および東アジア相関器 (KJJVC) を含めた相関局の VSOP-2 観測に必要な性能要求を満たすために、国立天文台 VSOP-2 推進室は、地上 VLBI ネットワーク整備に関する様々な課題を検討するワーキンググループを立ち上げ、大学連携 VLBI グループ、NICT などの協力を得ながらその詳細な整備内容を検討してきた。その整備計画は 2 つの大きな柱として、衛星観測システムに対応したフロントエンドシステムの 2 偏波化と、衛星 1Gbps-地上局 2Gbps 広帯域記録の実現を含む。これらの整備内容を検討するにあたり、各 VLBI 局の現状の把握と今後の開発整備方針の検討がなされてきた。今後は 2012 年度後半の衛星打ち上げに向けて、以上に掲げた地上 VLBI 観測局整備のため、予算や人材確保を含めた実行体制の構築、国内及び東アジア地域の関係機関との連携による体系的な整備計画を策定してゆく必要がある。